

令和7年度 甲賀市総合防災訓練 結果報告

「逃げ遅れゼロ ～自分の命は自分で守る 地域でつなぐ～」

1. 訓練方針

近年の大規模災害の発生や新たな災害想定の公表により高まる市民の防災意識を踏まえ、災害時に適切な行動を取り「逃げ遅れゼロ」を目指すとともに、「自分たちのまち・命は自分たちで守る」という自助・共助の意識向上と防災関係機関との連携強化を目的として、総合防災訓練を実施した。

- 3つの観点**
- ①TKB（トイレ・キッチン・ベッド）を取り入れた訓練
 - ②体験を通じた防災意識向上のきっかけづくり
 - ③自治振興会、区、防災士等がタイアップできるようなプログラム

2. 訓練想定

11月15日未明の局地的豪雨による土砂災害に加え、同日午前8時に発生した南海トラフ巨大地震により甲賀市では最大震度6強を観測し、住宅・道路被害やライフライン停止など甚大な被害が発生した。

発災から26時間が経過し、在宅避難が困難な被災者が避難所に集まり、避難生活のニーズが多様化しており、さらに落雷による山林火災が発生して延焼が拡大している。

3. 訓練内容

1) お家で防災訓練

訓練日時：令和7年11月15日（土）午前8時

- ①あいこうか緊急メール等による情報伝達訓練
- ②市内各家庭でのシェイクアウト訓練（一斉防災行動訓練）
- ③エフエム花による臨時災害放送の実施

2) 地域で防災訓練

- ①避難所運営図上訓練（HUG）の事前実施

訓練日時：令和7年10月30日（木）午後7時30分～午後9時

訓練会場：甲賀地域市民センター

参加者：甲賀地域の区・自治振興会役員、防災士 46人

3) 会場で防災訓練

訓練日時：令和7年11月16日（日）午前9時30分～午後2時

訓練会場：鹿深夢の森、かふか生涯学習館（甲賀市甲賀町地先）

参加者：関係機関・団体、市職員、一般来場者等 約950人

(1) 訓練内容

(ア) 避難所開設・運営訓練

- ①油日自治振興会の指導・助言による区・自治振興会と防災関係者等が協同した避難所の開設・運営
- ②TKB（トイレ・キッチン・ベッド）を取り入れた避難生活の体験
・防災トイレの体験、トイレカーの展示、キッチンカーでの炊き出し訓練、段ボールベッド、簡易テントの組み立て体験など

③付帯訓練等

- ・生活協同組合コープしがと赤十字奉仕団による避難所生活物資の運搬・供給訓練

(イ) 災害対応訓練

①火災防御訓練

- ・甲賀市測量設計協会によるドローンでの災害情報収集を取り入れた消防団と消防署との連携中継送水訓練

②臨時災害放送局の開設・放送訓練

- ・エフエム花による会場での臨時災害放送局の開設、防災情報や訓練の開催状況などの放送

③新規採用市職員による土のう作成訓練

(ウ) 防災講演会の開催

- ①「気象台からの防災気象情報と地震について」をテーマに、彦根地方気象台による防災気象講演会

(エ) 体験・展示ブースの設置等

①体験ブース（5ブース）

- ・起震車による地震体験、消防隊員変身体験、ドローン操作体験、AR浸水体験、仮設給水体験

②展示ブース（15ブース）

- ・関係機関や災害協定締結団体等による啓発・情報発信

③その他

- ・外国人防災リーダー任命式の開催、スタンプラリーと参加者アンケートの実施

(オ) はたらく車が大集合

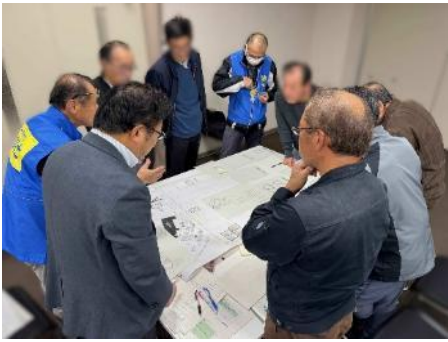
- ・災害時に活動する車両の展示（12台）と搭乗体験（4台）

(2) 参加機関・団体等（順不同・敬称略）

- | | |
|-------------------|---------------------|
| ・甲賀地域区・自治会、自治振興会 | 災害協定締結団体 |
| ・陸上自衛隊 | ・甲賀市災害福祉ネットワークセンター |
| ・国土交通省近畿地方整備局 | ・(一社)甲賀市国際交流協会 |
| 琵琶湖河川事務所、滋賀国道事務所 | ・(一社)滋賀県建設業協会 甲賀支部 |
| ・彦根地方気象台 | ・(一社)滋賀県LPガス協会 甲賀支部 |
| ・滋賀県甲賀土木事務所 | ・甲賀市測量設計協会 |
| ・甲賀警察署 | ・滋賀県電気工事工業組合 水口支部 |
| ・甲賀広域行政組合消防本部 | ・(公財)日本公衆電話会 滋賀支部 |
| ・甲賀市消防団 | ・NTT西日本(株) 滋賀支店 |
| ・滋賀県土地改良事業団体連合会 | ・(株)NTTドコモ 滋賀支店 |
| ・甲賀市防災士連絡会（甲賀地域会） | ・関西電力送配電(株) 滋賀支部 |
| ・甲賀市地区赤十字奉仕団 | ・(株)水口テクノス |
| ・(一社)滋賀フードトラック協会 | ・エフエム花 |
| ・(株)奥山ポンプ商会 | ・西尾レントオール(株) |
| ・滋賀日産自動車(株) | ・生活協同組合コープしが |

4. 実施状況

避難所運営図上訓練 (HUG)



避難所開設・運営訓練



火災防御訓練



臨時災害放送局開設・放送訓練



生活物資運搬・供給訓練



土のう作成訓練



防災講演会



体験ブース



展示ブース



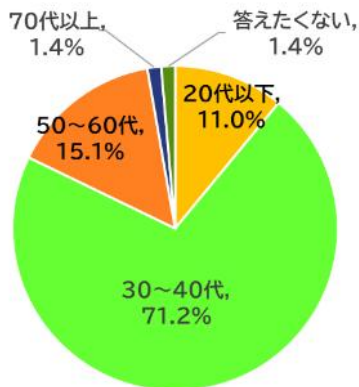
はたらく車が大集合



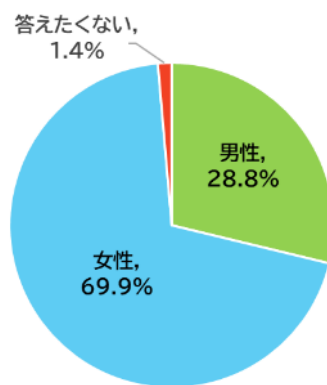
5. 参加者アンケート結果（抜粋）

回答者数 73人

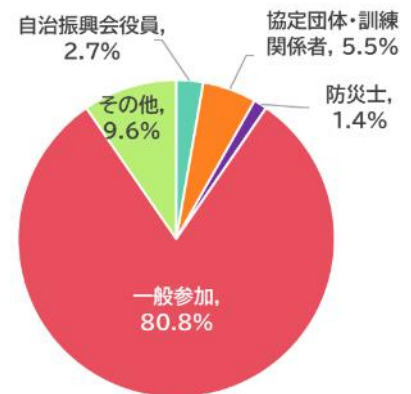
①年代



②性別



③参加立場



④今回訓練の満足度



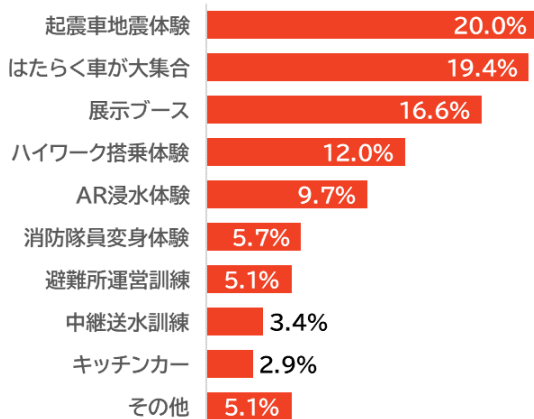
「あまり良くない」「良くない」の回答はなかった。

⑤訓練参加による防災意識

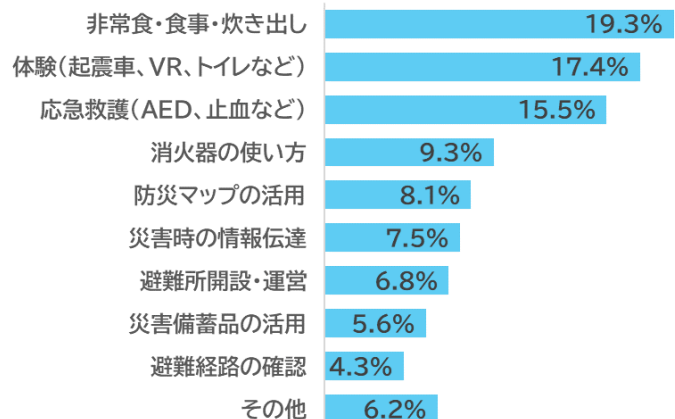


「あまりつながらなかった」「つながらなかった」の回答はなかった。

⑥良かった訓練内容



⑦今後実施してほしい訓練内容



- ▶ 訓練に対する満足度は高く、「参加して良かった」とする回答が大多数を占めており、内容・運営等において参加者の期待に応えるものになっていた。
- ▶ 特に、起震車や各種体験、展示ブース等の体験型プログラムは高い支持を集め、体験を通して防災を自分事として捉えるきっかけづくりに寄与したものと考えられる。
- ▶ 訓練を通じて防災意識が向上したと感じた参加者が約9割に達し、知識の習得にとどまらず、日常の備えや行動を見直す契機になるなど、実践的な効果が得られた。
- ▶ 今後実施してほしい訓練は、災害発生時に役立つ実践的な内容への要望が多く寄せられ、知識習得型の訓練よりも行動につながる具体的なスキルの習得を重視している。
- ▶ 今後の防災訓練においては、体験・実践型訓練を中心に据えつつ、市民の生活や役割に応じた内容を組み合わせることで、より実効性の高い地域防災力の向上につながるものと考えられる。